

7 評価



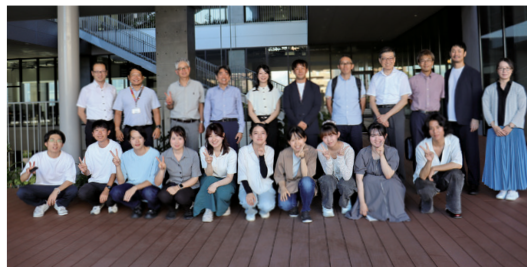
環境コミュニケーション／立命館大学

2026年8月6日、立命館大学大阪いばらきキャンパス(OIC)において、立命館大学との意見交換会を開催しました。(立命館大学5名、東海国立大学機構19名が参加)

まず、立命館大学に2024年度に新設されたH棟を見学しました。人工的な気流を創出する屋内・屋外ファンや学生間の交流を促すスペースなどを見学し、先進的な構造や設備に加え、屋上の太陽光発電設備など、エコキャンパス実現に向けた立命館大学のさまざまな取組について学ぶことができました。

その後の意見交換会では、東海国立大学機構の環境サークルの学生が日頃の活動を紹介しました。構内の池の保全活動や自転車などのリユース活動、子どもを対象としたエコ工作教室などに対して関心が寄せられました。また、お互いの環境報告書の概要を共有し、環境報告書の編集や環境活動の推進に関する活発な意見交換が行われました。

今回の意見交換会でのご意見などは、今後の環境報告書の充実ならびに環境活動のさらなる発展に活かしていきます。



いただいた意見

- 学生の活動や卒業生の活躍まで広くアプローチして積極的に環境報告書に掲載されており、大学における環境活動を身近に感じられる構成となっている。
- 環境データが過去数年分掲載されており、経年変化が分かりやすく示されている。
- 学生による環境活動が、学生主体で継続的に実施されている点が印象的であり、定期的な活動が環境意識の定着や活動の進展につながっている。

参考になった立命館大学の取組

- 学校法人全体の環境関連の取組を統一的に取りまとめ、大学・附属校を含めた幅広い活動を環境報告書で発信している。
- 環境データが一元的に管理されていることで、継続的な把握と情報公開を行っている。
- びわこ・くさつキャンパス(BKC)内の「BKC自然緑地」が継続的な保全活動により、環境省から自然共生サイトに認定されており、研究・教育・地域連携に活用されている。
- 学生が国際会議で環境活動を発表する機会を支援し、サステナビリティ活動を通じた人材育成に取り組んでいる。

参加学生のコメント



▶名古屋大学工学部2年
田中 陽平(名大祭実行委員会 環境対策部所属)

立命館大学と東海国立大学機構で環境報告書の意見交換や新施設の見学を行い、大変有意義な時間となりました。特に、立命館大学の施設が避難所を兼ねており、地域に貢献している点が印象的でした。私たちも単なる環境配慮にとどまらず、地域やその先を見据えた活動を目指していきたいです。



▶岐阜大学地域科学部3年
西脇 壮洛(岐阜大学生協学生委員会(GI)所属)

意見交換会では、外部の方々の活動や意見に触れ、新たな視点を得ることができました。特に、附属校との連携や「社会で実際に役に立つか」という視座で活動を考える重要性を学びました。また、キャンパス案内をしていただく中で、スマートフォンアプリを活用した行動変容や環境意識に関する調査など、先進的な取組が行われていることを知りました。今後も環境対策について、大学の内外を問わず積極的に学び、自身の活動の幅を広げていきたいと思っています。



環境コミュニケーション／日本特殊陶業株式会社

2026年2月27日、岐阜大学・名古屋大学で環境活動に取り組む学生・教職員27名が日本特殊陶業株式会社小牧工場（愛知県小牧市）を訪問しました。

工場見学および意見交換を通して、日本特殊陶業が進める、環境に関わる技術、脱炭素への取組などについて理解を深めました。



最先端の技術を体感



スパークプラグ工場見学の様子

日本特殊陶業株式会社では、自動車向けスパークプラグおよび排ガスセンサなどの製造を主力とし、自動車の燃費向上や排ガスのクリーン化を通じて環境負荷低減に貢献しています。さらに、長年培ってきたセラミックス材料技術を基盤に、自動車部品から次世代モビリティ、半導体、環境エネルギー分野まで幅広く事業を展開しています。今回、見学させていただいたスパークプラグ工場では、精密な加工技術や自動化が進んだ生産工程がアニメーションを交えた説明とともにわかりやすく紹介されていました。普段目にするものではない製造現場・工程を見学することができました。

大学と企業の視点が交わる場に

意見交換会では、日本特殊陶業が掲げるカーボンニュートラル実現のための各施策について、研究者・技術者の方々から説明がありました。

特に関心を集めたのは、

- ・CO₂排出量に応じて部門が負担する社内炭素税制度とその資金を設備投資へ活用する社内環境ファンド
- ・従来よりも半分以上の低エネルギーで実現するセラミックスの焼結技術の開発
- ・水素・炭素循環に特化したCVC^{*1} ファンドによる投資支援
- ・スタートアップ企業の技術開発を支援する実証フィールド「SUISO no MORI hub」
- ・CO₂の地産地消と利用の促進を目指し、焙煎ごま油の工場から排出されるCO₂を分離・回収し、温室みかんの栽培に利用する「地域CCU^{*2} プロジェクト」

というような企業の技術力とスケールを活かした包括的なアプローチでした。

また、岐阜大学環境サークルG-ametの鶴ヶ池自然再生プロジェクト、名古屋大学環境サークルSong of Earthのリユース市やエコ工作イベント、名大祭実行委員会環境対策部の環境配慮活動も紹介し、大学・企業間での交流が深まりました。



意見交換会の様子

参加学生のコメント

- 社内に炭素税制度を導入し、それを基に省エネ化を推進していくという取組は、とてもユニークで効果的な方法だと感じました。
- セラミックス加工で培った技術をMOF^{*3} に応用する、工場で排出されたCO₂をミカン畑に利用するなど、着眼点が面白く、今まで培ってきた技術や考え方を次に生かそうとする姿勢に共感できました。
- SUISO no MORI（水素の森プロジェクト）によるスタートアップ支援、CVCファンドによる支援が、水素社会の実現を見据えた長期的

な視点で行われている点が特に印象に残りました。

- 大企業ならではの幅広い取組を知り、大学と企業の間で新たな協働の可能性を考えるきっかけになりました。
- 事業を始めるプロセスや継続していく方法などをお話していただきました。これらのお話は、学生では知る機会のないもので、今回話していただいたことは貴重だと感じました。

※ 1 CVC：Corporate Venture Capitalの略です。コーポレートベンチャーキャピタルは、事業会社がベンチャー企業に対して行う投資活動のことです。

※ 2 CCU：Carbon dioxide Capture and Utilizationの略です。二酸化炭素（CO₂）回収・利用のことです。

※ 3 MOF：Metal-Organic Frameworkの略です。金属イオンと有機分子からなる非常に小さな孔（数nm程度）を有する金属有機構造体のことで、その孔にさまざまな小分子を捕捉することができ、適切な設計を行うことで、特定の分子のみを捕捉することも可能となります。

▶ 日本特殊陶業株式会社ウェブサイト
<https://www.niterragroup.com/>



河合石灰工業株式会社

先進材料事業部 常務執行役員 ^{きど} ^{けんじ} 木戸 健二 氏



私は岐阜大学大学院工学研究科を修了し、地元大垣市の石灰製品メーカーで電子材料などの火災の抑制や機能性を付与する環境にやさしい材料「ペーマイト」の開発に携わってきました。この度ご縁があり東海国立大学機構の環境報告書の第三者評価の執筆をお受けすることとなりましたこと大変光栄であり、感謝いたします。本評価は、第三者の立場から貴機構の環境報告書について客観的に確認したものです。

貴機構の環境報告書は以前より拝読しており、親しみやすいポップなデザインで構成され、大学の役割・本分である教育ならびに学術研究と環境活動を両立した活動および報告になっていることを高く評価しています。環境報告書2026においても大学の環境への取組が体系的に記載されており、透明性(情報の正確性・網羅性・明確性を確保し、第三者が理解できる)も確保されていると判断します。また、学内外の多様なステークホルダー(学生、地域、企業)を巻き込んだ「共創のプロセス」が確認できます。機構長が掲げる「Make New Standards for The Public」のもと、貴機構の持続可能な大学運営のための環境への取り組み方と現状がよく分かる報告書になっています。また、環境管理体制が組織として確立されており、役割と責任が明確で確実な取組とともに適切なレビューがなされる組織になっていると感じます。「教育」「研究」「社会連携」「組織運営」「キャンパスプラン」といった多角的な視点から目標を設定し、環境配慮型の活動に取り組んでおられる点もグッドポイントです。教育面では、「環境マネジメントと環境経営」や「内部監査員養成研修」など機構長のコメントにもある「人生の糧」となる有効な環境人材の育成活動がなされています。

一方、懸念点もあります。一昨年の環境報告書2024から両大学のカーボンニュートラルロードマップが明記されていることは、目指すべき中長期の目標が共有されており、より活動の実現性が高まるものとして効果を発揮すると考えられます。このロードマップによれば、2026年は、「CO₂排出量2013年比51%削減」に向けた起点の年となると読み解かれ

ます。ロードマップでは創エネ・排出係数による削減を中心に年率5～7%の削減が計画されております。これは容易な計画ではなく担当の皆様の苦労は計り知れないものと思われまます。目標達成が外部要因(電力CO₂排出係数など)に左右されやすい構造には危うさを感じます。この高い目標に対し、これまでの環境活動の成果が実を結び、また、本環境報告書が多くステークホルダーに共有され、環境意識が高まり、全ての教職員・学生・関係者(構成員)のそれぞれが少しずつ寄与していくことで、今までのあたりまえのエネルギー消費ベースから脱却した変化が引き起こされることを期待します。

私ども河合石灰工業が取り扱う石灰は地球上に豊富に存在し、日本国内で自給自足できる環境にやさしい資源です。石灰は鉄鋼、建材、化学、農業・肥料、上下水道、排ガス・排水処理、鳥インフルエンザなどの家畜伝染病に対する防疫など身近なところで社会を支える材料です。河合石灰工業は「自然と歴史、人」を大切に、環境マネジメント、SDGsの推進、緑化活動、太陽光パネルの設置など、石灰という自然のものを扱う企業だからこそ環境保護活動に積極的に取り組んでいます。地元企業として貴機構とも連携して、今後も社会と経済、環境に対し貢献してまいりたいと考えております。最後に貴機構の益々の発展を祈念し、私の評価書とさせていただきます。

KAWAI LIME 河合石灰工業株式会社

河合石灰工業株式会社ウェブサイト
<https://www.kawai-lime.co.jp>



案内動画



<河合石灰工業の認定・登録・表彰>

ISO14001、健康経営優良法人 2026、岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進企業
ぎふSDGs推進シルバーパートナー、令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰

